

新規キャベツ栽培が開始される

J A 東びわこ彦根営農センター管内において、集落営農 1 組織と認定農業者 2 経営体が、新規に合計 50a のキャベツ栽培を開始されました。昨年度末から継続的に J A と当課で連携して栽培推進や研修会を行った結果、キャベツ栽培に取り組まれることとなり、8 月 26 日から 9 月 7 日に順次定植が行われました。今後も収量が確保できるように継続して現地巡回を行い、次年度以降の栽培面積の拡大につなげていきます。

J A 東びわこ彦根営農センター管内では近年、まとまった面積の露地野菜栽培が行われていませんでした。そこで、新技術で実る「しがの園芸」育成事業を活用して J A で全自動播種機と乗用半自動移植機を導入されるのをきっかけに、普及計画に位置付けキャベツ栽培の推進を行いました。

対象にはキャベツ栽培の経験がなかったため、排水対策等のほ場準備から生育ステージに合わせた適期作業の重要性など、失敗事例も含めて十分に説明した上で、栽培を開始してもらいました。

8 月の連続した集中豪雨の影響により、ほ場条件が十分でないなかの定植となりましたが、何とか適期に定植が完了し、その後の生育も順調に進んでいます。

J A での育苗管理や移植機の貸し出し方法にも課題があり、これらについても次年度以降、解決を図っていきます。



ほ場準備の現地研修



定植後のほ場